⑰ 田植唄句碑建立賀摺
（晴霞多代八十寿賀摺）

晴霞ぬしの八十寿を祝して

人多き代にたくひなし君か春　為山
老松の猶たしかなり初霞　少哉
有中にひと木珍らし八重桜　ミもと

晴霞の君の八十の賀に植
木をまいらせて

寿や幾春かけて有通し　迎山
わかもの、しらぬ栄耀や朝納涼　逸渕

こは春の小すりにおくれて
もれたるを序に挙く

わか庵や朝起のみを夏のつとめ　逸渕
夜毎にも来ねと待る、水難哉　為山
青さしや人にもよらぬもてはやし　西馬
絵うちはにものなつかしき寐起哉　祖郷
鳴かたのよく分るなり朝のせみ　等栽
芥子花夜さへ明れは散にけり　萬古
みしかよや葎の宿に人も居す　魯心
こくあさく垣ねつ、きの若葉哉　山子
露けしや一夜と、めし鮓の味　鳥吟

白川の関

古き世の俤深し夏木立　白亥
声に目のと、く空なり杜宇　美もと
夏きくや用のなき身の昼眼き　可簫
湖へさす日の照返す若葉かな　俳禅
よき人にあふこ、ちなり不如帰　好甫
落る日の槐にさして蟬しくれ　以粛
夜はあたに脱ては懸たる袷かな　尋香
山門の雨水すむやほと、きす　渓斎
都とは後ろ合せや氷室山　南々
さ、濁りさへいさきよし御秡川　寄三
袷にはうつり安さよ人こ、ろ　桃郷
木の間もる鐘もなつかし杜鵑　李郷女
人立に扁とられつ□□□馬　交水
見る音の耳迄冷す清水かな　半湖

常はよき木立うるさし五月雨　□□
たそかる、日影抱るほたに哉　□□
よしもなく立日うれしき暑哉　嵐牛
昼顔や雨におもはぬ花盛り　蓬□
吐はひる山ふところや鵜のか、り　而后
こみあふて花の影なしけし畠　□□
川音の違ふもをかし□一重　梅裡
葉さくらや往来たけの砂埃り　一清
人のさす傘の雫や花御堂　李曠
くりの花咲はちる迄さかり哉　醉雨
目のかよう磯家にも立幟かな　雀叟
山々の覆ひか、りて子規　五鈴
白いのは見に来外や燕子花　礪山
膝近うなるや五月の雨の萩　梅通
真中へ休みに出るや水馬　黙池
孑孑のきけんや今朝の俄はれ　公成
山々や青田養ふ吹おろし　淡節
落てから夫としれけり柿の花　石外
釣すてし蚊屋に溜るや麦埃り　祭魚
面白き旅とはなりぬ田植唄　月坡

中禅寺

山ふかき里や卯月にちるさくら　東樹
水離せしより人の初かつを　玄子
またいらぬ幗も出てある馳走哉　碩水
打水に湿らぬ色や百日紅　霞川
崖伝ふ水は音なし蟬の声　芹舎
うり畑や身にも涼しき通り雨　岳鳳
奥深くすち壁みえて茂り哉　湧瀧
柴橋に箒もあて、若楓　素屋
夕顔や寺を後ろに□か家　松隣
朝しはし雨をなくさむ蚊屋の中　松室
山水のいさんて落る田うえ哉　昇左
瀧の音近くも遠き茂りかな　曲隼
牛部屋を出かねる雨のほたる哉　閑那
したゝりの遠音引けり苔清水　鴎池
今消た螢袂てひかりけり　萬像
昼聞は声に隙ある水雞かな　亀年
来た音の窓にこたへて灯取虫　羅邨